

2004年度

Block 4 テュートリアル課題

課題番号 2

身体半身の運動麻痺



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となる場合がありますのでご注意ください。

神経内科学

2002-B4-2

## 身体半身の運動麻痺

### シート 1

山田孝雄さんは現在 69 歳ですが、元来スポーツマンで、テニスやゴルフを得意としており、やや血圧が高めなことを指摘されたことがあるくらいで健康には自信を持っていました。ところが、ある日、日課としていた朝のジョギング中に突然、左手足に力が入らなくなり、転倒してしまいました。

#### 【抽出を期待する事項】

運動機能の神経機構

突然発症する疾患

錐体路の解剖と機能

片麻痺の発現機構と鑑別診断

2002-B4-2

身体半身の運動麻痺

シート 2

通りがかった通行人が気付いて、救急車を呼んでくれ、総合病院の救急外来に搬送されました。  
担当医は本人およびかけつけた家族から話を聞いて、診察の結果を確認した後、ただちに緊急検査を行なうことを告げました。

【抽出を期待する事項】

問診で聴取すべき事項

全身所見と神経所見のポイント

緊急で行なうべき検査

2002-B4-2

身体半身の運動麻痺

シート 3

頭部の MRI 撮影が行われ、資料 2 (A) ～ (B) のような所見が得られました。山田さんは心電図検査が行われた後、直ちに入院となり、治療が開始されました。

【抽出を期待する事項】

脳梗塞の画像診断

脳の血管支配

錐体路の走行と障害部位

心房細動と脳卒中の関係

2002-B4-2

身体半身の運動麻痺

シート 4

入院すると、脳のむくみを取る薬の点滴注射が始まりました。経食道心エコーという検査が行われました。1週間で点滴は終了となり、血液が固まるのを防ぐ薬の内服と離床して本格的なリハビリテーションが開始されました。

【抽出を期待する事項】

脳浮腫の発現機構と抗浮腫薬

抗凝固薬の種類と作用機序

心内塞栓源と脳塞栓症の発症機序

リハビリテーションの意義